



みなみいづ 町議会だよい

No.102号
2025年
令和7年.8.1

発行／南伊豆町議会 編集／議会広報編集委員会 〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1 TEL0558(62)6240
E-mail:gikaij@town.minamiizu.shizuoka.jp



妻良海上アスレチック

主な内容

- 令和7年6月定例会 2~3
- 一般質問 4~8
- 南伊豆町議会視察研修 9
- 未来を担う子ども達、くろ潮 10

6月定例会を6月3日～4日の会期で開催しました。

定例会の内容は人事の同意案4件、補正予算の専決承認1件、農業委員選任の同意案11件、条例改正5件、契約1件、一般会計補正予算1件を可決・同意しました。一般質問は5人が登壇しました。(4～8ページ参照)

令和7年6月議会定例会採決一覧表

No.	議案番号	提出議案	審議結果	安藤広和	岩田稔	大年美文	黒田利貴男	渡邊哲	宮田和彦	比野下文男	稻葉勝男	清水清一	齋藤要
1	報第1号	専決処分の報告について（南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例）	報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	報第2号	放棄した債権の報告について	報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	報第3号	繰越明許費繰越計算書の報告について（令和6年度南伊豆町一般会計）	報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	報第4号	予算繰越計算書の報告について（令和6年度南伊豆町水道事業会計）	報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	諮第2号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めるについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	諮第3号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めるについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	議第48号	専決処分の報告及び承認を求めるについて（令和7年度南伊豆町一般会計補正予算（第2号））	原案承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	議第49号	副町長の選任について	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	議第50号	南伊豆町固定資産評価員の選任について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	議第51号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めるについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	議第52号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めるについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	議第53号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めるについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

No.	議案番号	提出議案	審議結果	安藤広和	岩田稔	大年美文	黒田利貴男	渡邊哲	宮田和彦	比野下文男	稻葉勝男	清水清一	齋藤要
13	議第54号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	議第55号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	議第56号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	議第57号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	議第58号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	議第59号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	議第60号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	議第61号	南伊豆町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	議第62号	南伊豆町国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	議第63号	南伊豆町火入れに関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	議第64号	南伊豆町漁港整備事業費の分担に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	議第65号	公共土木施設災害復旧事業費分担に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	議第66号	南伊豆町準用河川流水占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	議第67号	工事請負変更契約の締結について（令和6年度社会資本整備総合交付金事業町道落居線道路改良工事）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	議第68号	令和7年度南伊豆町一般会計補正予算（第3号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※議長 長田美喜彦は採決に加わっておりません。

賛成：○ 反対：×

●一般質問 町長に聞きました



黒田利貴男 議員

岡部町長3期目の施策について

質問 まず、町長の意気込みをお聞きします。

町長 「全ての町民が住みやすく、次世代・未来の子供たちに自信を持って引き継ぐことができる町」、そして「日本一輝く町」を目指し、皆様と一緒にとなって誠心誠意取り組んでまいります。

質問 子育て支援、教育の充実についてお聞きします。

町長 町の教育基本理念でもある「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」とした教育環境の推進に向けて全庁一丸で取り組んでまいります。

質問 観光低迷が進んでいます。同じように地域産業も低迷し、それまでの生業が成立しなくなっています。

観光、地域産業の振興策についてお聞きします。

町長 3期に向けた私の公約でも、観光需要の拡大を掲げております。

さらなる南伊豆の魅力の創出・情報発信を図るほか、ふ

るさと寄附事業においては、魅力的な返礼品開発の強化・推進を図ることで町内産業の活性化に取り組んでまいります。

質問 後期高齢者の大幅な増加が社会に大きな影響を及ぼすとされている2025年問題が不安視されるのが本年です。

福祉の充実についてお聞きます。

町長 健康寿命の延伸や地域で支え合う仕組みの構築を推進し、高齢者が自分らしく暮らせる町の実現を目指してまいります。

質問 保護者が安心して働ける環境をつくることが重要です。現在の学童保育の現状についてお聞きます。

福祉介護課長 本年度につきましては、40人の募集に対して55人の申込があり、45人を通所許可とさせていただいております。結果、10人が待機児童となっております。

質問 インフラなど、行政の取り組む事前防災はまだまだ整備が必要だと思います。

防災・減災への対応についてお聞きます。

町長 今後も町民個々の防災対策や自主防災会の機能強化を推進するとともに、地域特性に合わせた実効性の高い対応に努めてまいります。

でのその必要性を感じました。森林整備の現在の状況についてお聞きます。

町長 火災の発生や延焼を未然に防ぐための効果的な取組なども検討してまいりたいと考えております。

地域整備課長 木材生産、地球温暖化防止に関する森林整備及び水源涵養や生物多様性の保全を目的とした森林整備を行っているところです。

質問 森林整備を行うには林道または作業道の整備も必要と感じています。

現在の路網整備の状況についてお聞きます。

町長 一般車両が通行できる林道は7路線で、総延長は約10キロとなっております。

地域整備課長 林業事業体により、作業道総延長約54キロの整備がなされております。

質問 山林火災については、今定例会においても火入れ条例の改正が提出されています。

改正点についてお聞かせ下さい。

地域整備課長 1点目として、1回の火入れの許可対象面積を200ヘクタールから1ヘクタールに引き下げ、また、2点目として、火入れ事業者の人数を、0.3ヘクタールまでを5人以上から0.5ヘクタールまでを10人以上と、厳しい規定といたしました。

※未利用木材の活用方法について質問した。

森林環境整備について

質問 本年の相次ぐ山林火災



大年美文議員

新たな4年間への所信について

質問 これにつきましては、町長が選挙公報やメディア等に発信した内容についてお伺いします。3期目では、町長が防災対策や公共インフラの整備、これに力を注ぐというような発言をされている場面がありますが、具体的にはどんな内容で進められるかお聞かせください。

町長 令和7年度においては、防災対策の強化を目的として設置した防災課を中心に地域や身近な人々で助け合う共助の主体となる自主防災会の支援を強力に推進し、地域防災力のさらなる強化を図ることで、安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

質問 それから公共インフラの整備についてという面もお聞きしていますがいかがでしょうか。

町長 公共インフラ等の整備に向けては、道路、橋梁、河川、上下水道、認定こども園や小学校などをはじめとする公

の施設の新設、改良、機能維持に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

質問 4月より防災課が新設されたといった中で、以前の防災室と比べて1名減になっているが、その意図と申しますか、防災に力を入れるよといった中での1名減についてお聞かせ願えますか。

防災課長 今年度から防災室が防災課に替わって防災に力を入れるという中での1名減ということなんですが、当初、防災課をつくる予定をしていたときには、賀茂地区の消防団の組織の事務が当町から別の町に移るということで、1名減になってしまっても事務が回る、弱体化はしないという判断で今の体制になっています。

質問 インフラの件でいろいろ説明をしていただきました。3月の定例会でも質問させてもらった下水道事業、非常に私、危機感を持って考えています。町長その辺の考えがあればお願いします。

町長 多分議員と同じような危機感を私たちも持っております。そのためといってはちょっと適切ではないかもしれません、今回のごみの広域事業では財政負担の削減、軽減が必要と考えます。これから町でやらなければいけないインフラ整備というのが、大変大きな金額が待っているわけです。その中で下水道というのはやっぱり大きな意味合いがありますので、これはしっかりと、法律的なことも

様々なございますけれども、解決できることを一つずつ解決して、順を追って年数もかかりますけれどもしっかりと対応していくて将来に負担を残さないという形をつくり上げていきたいと思いますので、また議会の皆様からもご理解とご協力を賜りたいと思っております。

防災対策について

質問 賀茂5市町で実施した土砂災害の避難訓練について。

防災課長 土砂災害の訓練ですけれども、ちょうど当町では小学校の運動会と日程が重なってしまったものですから、今週の日曜日、6月8日に南上地区で実施予定です。

意見 土砂災害と豪雨災害については非常に懸念しております。本番で冷や汗をかかないようにぜひ訓練では、自身も良い汗をかくよう努めますので、よろしくお願いします。

※南伊豆町総合計画等審議会について質問した。





宮田 和彦 議員

地域防災について

質問 避難路への誘導灯の設置は。

町長 各地区からの意見、要望なども伺いながら、夜間停電時などにも対応可能な機器の設置について検討したいと思います。

質問 避難路への落下・倒壊物対策は。

町長 老朽危険家屋等解体撤去補助金制度を創設し、当該補助金の補助率では、解体撤去費用の5分の4以内の額で、個人には50万円、行政区が行う場合には300万円を上限額としています。

質問 避難生活支援に関する地域の人材確保、育成は。

町長 県が主催する被災者支援コーディネーター育成研修会などに職員を派遣し、人材の育成と確保に努めています。また、災害ボランティアの皆さんとは、平時からの連携・協働する体制づくりを進める他、地域人材の確保と育成に向けた関係性の強化を図ってまいります。

質問 災害ボランティア本部等の立ち上げ及び運営訓練の状況は。

町長 社会福祉協議会では、本部の設置・運営訓練等を、年1回実施していると伺っています。また、南伊豆災害ボランティアコーディネートの会では社会福祉協議会や自主防災会にも働きかけ、これら三者による合同訓練なども実施しています。

質問 町民のほとんどの人が災害ボランティア本部の立ち上げは、役場職員が行うと思っています。職員は災害時に被災者になる可能性もありますので、災害ボランティアの人づくりが一番大切になりますがいかがでしょうか。

防災課長 町がどこまでの支援関与ができるか検討したいと思います。

広域ごみ処理

質問 南伊豆地域清掃施設組合の会議内容は。

町長 20年で305億円としていた事業費が約6億円から13億円縮減されるとの報告がありました。町の大幅な負担金の縮減にはつながらない結果となりました。

①組合側から示されている既存施設の解体費にかかる負担内容などがまだ不明確であること。
②都市計画等の法的対応として、建設予定地の土地購入等の方針が決まっていない

こと。

③予定地の土壤汚染対策法に係る調査の実施者及びこれら経費の費用負担などが不明確であること。
からプラント事業再開を保留していました。今後の方針につきましては、民間処理委託への全量搬出による方法が、運営期間40年で20億円の財政負担の軽減が見込まれることから、6月2日に開催された南伊豆地域清掃施設組合運営会議において、本町は単独のゴミ処理運営をする旨を構成市町首長にお伝えしました。



ハンマーヘッドシャークとジオと食の観光

質問 ハンマーヘッドシャークとジオと食の連携をどのように観光へ取り組みますか。

町長 ハンマーヘッドシャーク・ウォッチングの神子元島スキューバダイビングを主軸として、ジオパークのガイドツアー、地元食材料理と温泉など、町の魅力をパッケージにしたアドベンチャーツーリズムの商品開発を目指し、ダイビング組合、旅館組合などと連携、協力しながら観光協会が中心となり準備を進めています。



安藤 広和議員

持続可能な町のための地方創生と人口問題について

質問 人口減少という重要な問題を背景にした、今回の大幅な政策変更と持続可能な町を目指す町の考え方を伺います。

町長 時代のニーズに対応しながら進めてきた地方創生関連事業において、想定以上の広がりを見せたことなどから、事務量の増加によるマンパワー不足などが生じ、その人員と機能を企画課企画係に統合した中で、事業の選択と集中並びに事業規模の適正化を図ることで、効率的かつ効果的な事業推進を目指すことといたしました。今後も人口減少問題への取組は継続するものであります、引き続き、本町を持続可能な地域として、未来につなげるための様々な取組を進めてまいりたいと考えております。

質問 賀茂圏域の出産業務終了における、今後の対策について伺います。業務再開を含め、課題を近隣市町と連携し、県や国への要望活動等も必要ではないかと考えますが、現

状及び今後の取組を伺います。

町長 少子化の進む賀茂圏域においては、産科医療に携わる医師や助産婦などの人材確保に加えて、医療施設や医療機器などの整備、これら経費にかかる財源負担など問題は山積しており、公設、民営を問わず、産科の新設は不可能と言わざるを得ない状況にあります。今後も賀茂圏域の市町と連携し、妊婦健診体制の維持や圏域外での分娩取り扱い施設への円滑な引き継ぎなど、地域に存在する医療資源等を最大限に活用しながら、安心・安全な出産につなげるため、ICT活用の可能性なども探るほか、引き続き対象者の方々から、ご意見やご要望も伺いながら、各種支援策の拡充に取り組んでまいります。

次回のみなみの桜と菜の花まつりに向けて

質問 次回は、10年ぶりに「夜桜流れ星」の開催も予定されており、町民からの期待や観光客誘致にも期待したいと考えていますが、いかがでしょうか。

町長 関係団体との調整を進めているところでありますが、私も先頭に立ち、桜祭り実行委員会や多くのご協力いただける方々など、オール南伊豆体制で盛り上げてまいりたいと考えております。

質問 日野の菜の花畠の木道の復活や写真撮影用スポット

としての、ちょっとしたステージ作製などを検討いただけないでしょうか。

町長 毎年天候によって開花状況が変動する桜と比較いたしまして、菜の花畠は安定して観賞できることなどから、多くの来訪客で賑わい、また期間における有力な集客スポットとなっております。木道や写真撮影ステージなどの設置、運営についても、実行委員会においてご検討いただき、調整を進めてまいります。

質問 様々な課題を検討する専門家を含んだ保全体制を整備する組織作りや作業計画などが重要と考えますが、今後の取組方針を伺います。

町長 青野川沿いの約800本の河津桜の保護育成と適正なる管理を目的として、仮称ではありますが「みなみのさくら守人の会」を立ち上げるため、賛同いただける方々の募集を開始したところであります。活動予定としては、桜の管理に関する講習会及び講演会への参加、先進地視察などを予定しており、これら活動を通じて組織の育成を図り、持続可能な桜の維持管理の最適化を推進してまいります。

このほか、保護・育成における実効性の高い作業計画や、剪定枝の活用などについても、今後の活動の中で対応を検討してまいります。





渡邊 哲 議員

町長3期目の当町のかじ取りについて

質問 町長の3期目の当町のかじ取りについて、どのように考えていますか。

町長 3期目の町政運営に向けては、まちづくりの指針となる第6次南伊豆町総合計画に基づく、主要施策の着実な遂行に加え、引き続き、町民ファーストの町政を推進し、誠実かつ謙虚な政治姿勢を持って、皆様の負託にお応えするため、政策の選択と集中による重点化の下、限られた財源を有効に活用しながら、未来へ続く、安定的な行政サービスの提供に努めてまいります。「安心して住み続けられるまち、持続可能な地域をこどもたちの未来のために！」をスローガンとして、

5つのまちの将来像の実現に向けた取組をもって、「全ての町民が住みやすく、次世代・未来の子供たちに自信を持って引き継ぐことができるまち」として「日本一輝くまち」を目指し、町民の皆様と一緒にになって誠心誠意取り組んでまいります。



質問 第6次総合計画の中に、医療機関の充実した町、安心して子供を産み、子育てできる町、美しい自然に守られている町、福祉の充実した町、災害に強い安全な町、こういうことが町民アンケートの結果として載っています。医療機関の充実した町について、もう少し細かく答弁をお願いできますか。

町長 総合計画は指針ですので、大まかなところで進めていくというところです。医療の充実した町というのも、近隣の町と比べても診療所の数多く、様々な施策も打って

います。個別について回答が必要でしたら、また、おたずねいただきたいと思います。



質問 下田メディカルセンターは進歩がない、賀茂地域では子供が産めない、何とかなりませんか。

町長 病院の進歩がないという発言の意図がわかりませんが、私どもは下田メディカルセンターの構成市町として、しっかりと二次救急としての下田メディカルセンターを支えなくてはいけないと思っております。また、産科の問題は遠隔地の出産となるためしっかりと支援をしていきます。



・交通安全運動街頭広報・

7月11日から20日まで、夏の交通安全県民運動が実施されました。実施にあわせ、7月16日に下賀茂の交差点で、のぼり旗やたすきを身に着け、街頭広報を行いました。

これからも、街頭広報で道路を行き交う車や登校する子供たちに交通安全を呼びかけていきます。



下賀茂前原橋付近の交差点

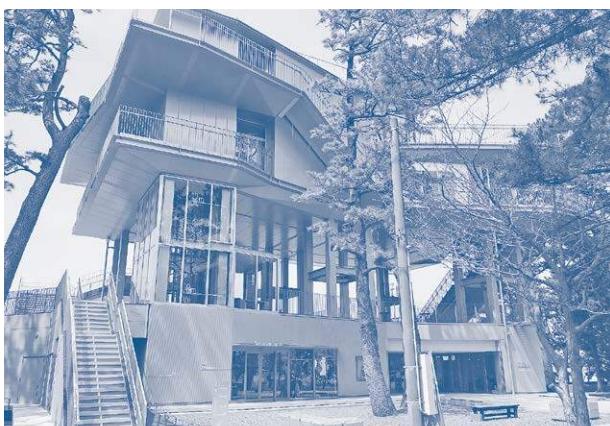
南伊豆町議会視察研修

4月18日、伊豆市に視察研修へ行きました。

今回の目的は南伊豆町の課題でもある観光・防災・森林環境整備・清掃施設などの先進事例を見学することで議員が学び現場の声を聞き町政運営に反映できるように企画されました。

。 テラッセオレンジトイ 。

土肥にあるこの施設は、「防災」と「観光」の機能を兼ね備えた全国初の津波避難複合施設です。地上4階建てで避難スペースは3階以上。エレベーターもあり高齢の人、障害のある人でも速やかに避難ができるとともに、松原公園の松林に影響を与えない最大限の環境配慮がなされていました。



津波避難複合施設「テラッセオレンジトイ」

。 伊豆大平中間土場 。

静岡県森林組合連合会伊豆大平中間土場では、木材市売販売、木材流通事業、林産事業等を行っています。木材の出所が明らかであれば誰のものでも森林組合連合会が買い取り、また、その木材を買うこともできます。

少しでも町内の森林資源が利益になるのであれば資源の価値観が上がってくるのではと感じました。



伊豆大平中間土場

。 クリーンセンターいづ 。

伊豆市と伊豆の国市の可燃ごみを処理する「クリーンセンターいづ」を視察しました。この施設は24時間連続運転による稼働で安定的にごみを焼却処理し、焼却熱を利用した蒸気タービン発電を行っています。また、住民に開かれた施設となっており、見学コースや大きな見学窓から工場棟の内部を見ることができました。モニター映像や模型の展示などもありしっかり学ぶことができました。



伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設
「クリーンセンターいづ」見学廊下にて

未来を担う子ども達

有終の美と未来への一歩

令和8年3月31日。この日が現行南伊豆中学校最後の日となります。本校の歴史を紐解くと、最初の統合は昭和46年でした。南中中学校と三坂中学校の統合で南伊豆中学校が誕生しました。その当時は南中中学校の校舎を利用してましたが、昭和58年3月に新校舎が完成し、現在の場所に移転しました。実は私が中学3年生の時、1度だけ南伊豆中学校に部活（卓球）の練習試合で来たことがあります。昭和55年の6月だったと思います。現在の南中中学校の坂を上がり、バレー部がグラウンドで練習しているのを横目に講堂へ入り、練習試合をしたと記憶しています。

時は移り、平成7年には南伊豆中学校、南上中学校、三浜中学校の3校の統合により現行の南伊豆中学校が誕生しています。私も統合時の教職員として勤務させていただきました。そして、令和8年度から新生南伊豆中学校がスタートします。

現行南伊豆中学校の生徒が掲げる活動目標に「4本柱」というものがあります。平成7年の統合時に「行事」「掃除」「合唱」の3本柱でスタートしたのに、後年「あいさつ」をプラスして現在の「4本柱」となっています。どれも生徒主体で一人一人が輝けるように取り組んできたものです。その積み重ねが今、伝統となり受け継がれています。

来年度の統合へ向けて、南伊豆東中学校との効果的な融合を図るべく、教育課程・教科指導・特別活動や環境整備等を推し進めています。新生南伊豆中学校の校訓となっている「自立・創造・協働」を踏まえつつ、現行南伊豆中学校の伝統を生かせる新生南伊豆中学校にしていくことが大切であると考えています。

ただ、現行の南伊豆中学校は今年度末までの期間、学習・活動を続けます。今年度の学校教育目標「自分の力を最大限に発揮する生徒」を達成し、今年度をやり切ることが責務なのです。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

南伊豆町立南伊豆中学校 学校長 野口真樹也



「神子元は特別な場所なんだ。登山に例えるとエベレストなんです。」これは5月24日神子元クリーク作戦を行った時に船長が私に言った言葉です。そして続けて「今、町や地元のホテル、旅館、飲食店から大きな期待や応援を頂いている事は大変有難いと思っています。ただ神子元の海域は潮の流れがとても速く複雑で、経験を積んだダイバーしか潜る事が出来ない。つまり誰でも簡単にダイビングできる場所では無いという事は認識してもらいたいですね。」と話されました。ダイバーの命を預かる船長の重い言葉として受け止めました。ただ今も厳しい物価高が続く中、唯一の希望の星となっているのが神子元海域のダイビングであります。稼げる海のレジャー産業として大きく成長する事を期待しながらこれからも応援したいと思っています。

(岩田)